

浜岡原発再稼働の考えを問う

織部 光男（無所属）



Q 福島第一原子力発電所事故の現状をどのように捉えているか。

A 福島第一原子力発電所事故により故郷、ふるさとに帰ることができない住民の方もおり、原発事故はあってはならないことであるため、浜岡原子力発電所に隣接する市として国や事業者それぞれの責任において、しっかりとした安全対策を図っていただくよう働きかけていく。

Q 電源構成比における原発の望ましい比率は。

A 安全性の確保や需要と供給のバランス、環境への影響、経済性等について幅広く議論すべき問題であり、エネルギー政策は国策であることから、国が国民の理解を得る中で判断すべきと考えている。

Q 掛川市には、掛川市自治基本条例と常設型住民投票制度があり、菊川市にもなくてはならないものだと思うが、市長の考えは。

A 市民と行政との協働によるまちづくりを進め、事業決定に至る

プロセスとして、市の重要な計画の策定や事業実施については市民アンケートや外部委員による審議会等の開催、ワークショップ、関係団体へのヒアリング、パブリックコメントの実施など、計画・事業ごとに手法を検討した上で、市民の皆さまのご意見を頂く機会づくりに努めているため、現時点では自治基本条例や住民投票制度を制定する計画はない。

他に「掛川市・菊川市新廃棄物処理施設整備検討委員会問題」について質問しました。



茶業振興を主眼においた観光PR

須藤 有紀（みどり21）



Q 菊川市には豊かな農業資源や歴史、文化がたくさんある。自然環境や歴史、文化を生かした観光業の展望は。

A 多様化している観光客のニーズを踏まえ、個々の観光資源を磨き上げ、テーマごとに観光エリアとして連携させて集客につなげていきたい。先口採択された観光庁の補助事業を活用した深蒸し菊川茶産地ツアー造成事業を実施していく。

Q 茶の海外輸出額は、米、独に続いて台湾が第3位。姉妹都市提携について現状は。

A コロナが収束し安心して交流できる時期が来たら、茶業関係者と協力しながら、手もみ体験などの茶交流事業から再開していきたい。

Q 有機栽培の推進について考えは。

A 国が輸出、有機栽培について大きな目標値を立てている。市内茶商からも行政、JA、生産者に有機栽培への転換を求めるような動きが少しある。有機栽培には現場の様々な課題があり、新たな茶業振興計画を策定する中で、協議会の立ち上げなども視野に入れな

から協議を進めていきたい。

Q 18歳から29歳の若者の緑茶需要が26%増との発表があった。SNSの活用と同時に、物語と併せた菊川茶ブランドを発信して頂きたいが考えは。

A 飲食店に、菊川茶を使用したドリンク開発のプレゼンをした。その中で、美味しいだけでなく菊川茶の歴史、生産者の思いといったストーリーを発信することで、素敵な商品が生まれるという話を頂いた。

Q 「茶畑の中心で愛を叫ぶ」事業と連携し、愛を込めた手もみ茶を作るといった体験型観光との連携はどうか。

A 実施に向けて検討を始めた。



茶畑の中心で愛を叫ぶ事業